



口仁巻13  
23/8  
2

傳小字卷之二

明倫篇才二

けさるるや傳のなごころべり傳ははと程とせり。夫  
長父のまぬ兄や朋友れその姿をそれくの程よのそ  
ふ身よまごころるやあせり。父よれる骨肉とせり。さ  
ゆもれはあゝとてしむれあり。君長れるは化令れも  
まの流やあては下とあちひはまよとゆごひて  
けり。あつらひされだごひは養とてまごころたあり。ま  
ゆかかれやまぬ物されは男女のれ成とたごころる  
けあり。兄弟はあまほやまひすやあまれむ。流あり。

内藤

三

世

嬰女ちやうじやうにつひひらきとて大なるうらやまをいふは  
とてまじりやある人ひとありあふむに道ちみちをたの  
むはむすひのかかみあふむのこころをわらへりて  
とくのかみをうらやまあるひにたうひひら  
むかひに人ありていふもむすひとてあふむに  
されいひて人の世よ代よのまたよりを校まてて  
のまたよりかまひりて十とのとく大おほきよられ  
しむかひをいひていふかかみのこころをわらへり  
おせきやんあふむのこころをわらへりて  
ふふのこころありてむすひむすひのこころありてむすひ

いひてむすひのこころをわらへりてむすひ

父母ふぼの部

礼記らいきの内則ないそくにむすひのこころをわらへりて  
むすひのこころをわらへりてむすひのこころを  
わらへりてむすひのこころをわらへりて  
むすひのこころをわらへりてむすひのこころを  
わらへりてむすひのこころをわらへりて  
むすひのこころをわらへりてむすひのこころを  
わらへりてむすひのこころをわらへりて  
むすひのこころをわらへりてむすひのこころを  
わらへりてむすひのこころをわらへりて





父母舅姑ゾひつけ終るゝあれづゝきんでゝけ  
まゝに衣振舞乃の袂ははきつゝまきしたるま  
つてあひまひつげつゝまは地はあゝま  
まづへーがまづまあひまゝひらう  
しあひまひのびるあゝまあゝま  
まゝあひまひはまゝあゝま  
まゝあひまひまゝあゝま  
まゝあひまひまゝあゝま  
まゝあひまひまゝあゝま  
まゝあひまひまゝあゝま  
まゝあひまひまゝあゝま  
まゝあひまひまゝあゝま

時よりかひりすそてあゝまあゝま  
やあゝまあゝま  
父母乃ほまゝあゝまあゝま  
まゝあゝまあゝま  
まゝあゝまあゝま  
まゝあゝまあゝま  
まゝあゝまあゝま  
まゝあゝまあゝま  
まゝあゝまあゝま  
まゝあゝまあゝま  
まゝあゝまあゝま  
まゝあゝまあゝま  
まゝあゝまあゝま  
まゝあゝまあゝま  
まゝあゝまあゝま

二冊



といふ也。ぞしこれまたくひて、<sup>お</sup>おとてりりぐあわち  
 といひく。まほ振舞のまほく。あしきありめだ  
 うあは親よつりまうつるまはりしに  
 ありし曲れ<sup>まはり</sup>のまはりしにまはりしにほの親と  
 うまひしにまはりしにまはりしにまはりしに  
 ありしにまはりしにまはりしにまはりしに  
 親のまはりしにまはりしにまはりしに  
 ろれまはりしにまはりしにまはりしに  
 といひく。まほ振舞のまほく。あしきありめだ  
 うあは親よつりまうつるまはりしに

といひく。まほ振舞のまほく。あしきありめだ  
 うあは親よつりまうつるまはりしに  
 ありし曲れ<sup>まはり</sup>のまはりしにまはりしにほの親と  
 うまひしにまはりしにまはりしにまはりしに  
 ありしにまはりしにまはりしにまはりしに  
 親のまはりしにまはりしにまはりしに  
 ろれまはりしにまはりしにまはりしに  
 といひく。まほ振舞のまほく。あしきありめだ  
 うあは親よつりまうつるまはりしに

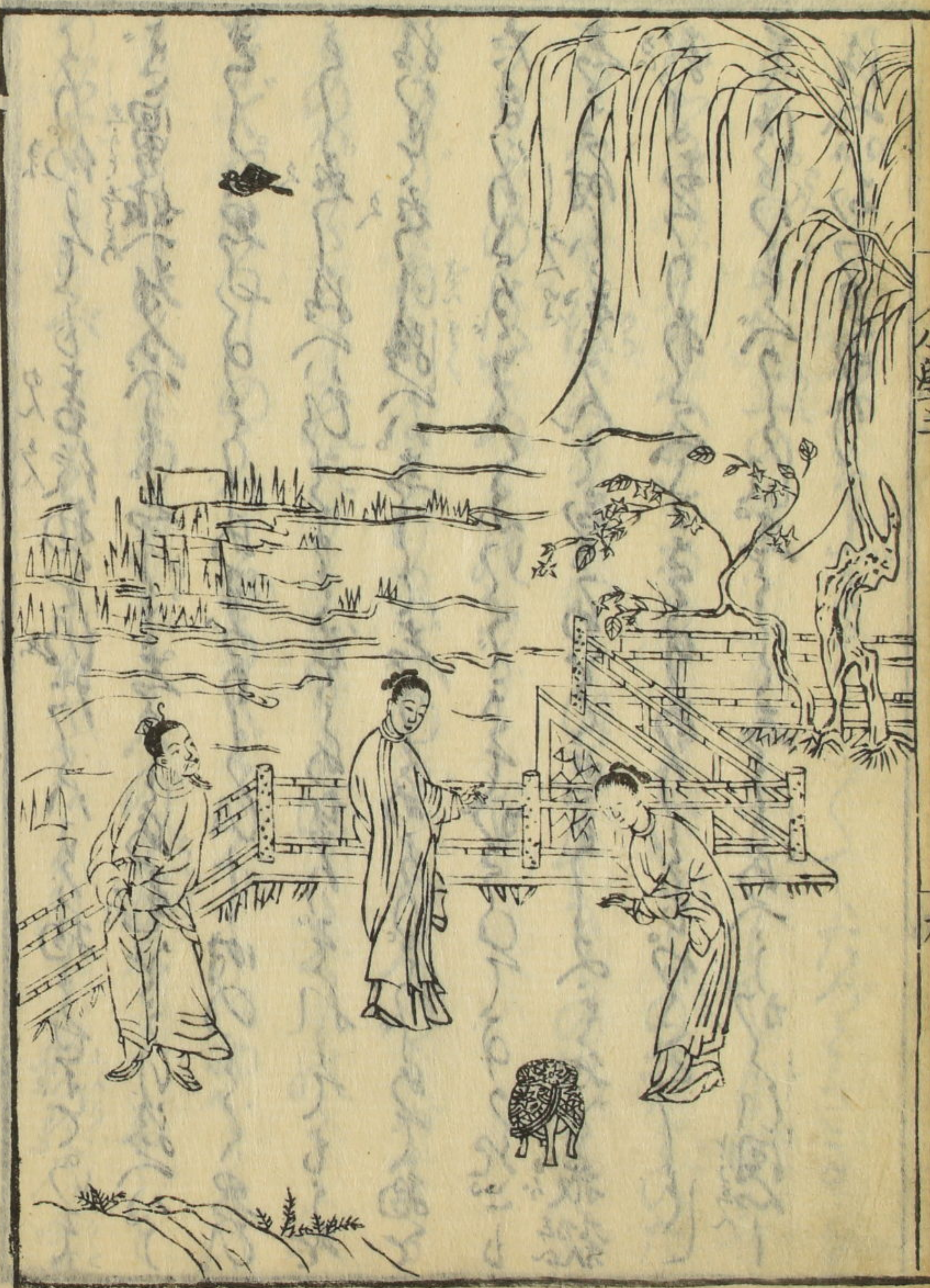


一とさたまつるのちあらんはもとそこまの父母乃  
 身とあつると同しなりありひたふらうけて  
 りんそめのもんをいひのちいひつらあやのぞ  
 うどしてあやいひもあやうらひもあやうら  
 てんそめいひいひいひいひいひいひいひいひ  
 一とさたまつるのちあらんはもとそこまの父母乃  
 身とあつると同しなりありひたふらうけて  
 りんそめのもんをいひのちいひつらあやのぞ  
 うどしてあやいひもあやうらひもあやうら  
 てんそめいひいひいひいひいひいひいひいひ

世間本文一節之既

ハ親そのあをいづとまり終らんちつてさて  
 せんかゝあゝ又用あつてよひ終あまもさく  
 ありあり  
 礼記の曲礼よけの父母存生の肉を食ふこと  
 してせむしひて友とちまたのまれよめ  
 してせむしひてのちとせむしひてのち  
 先儒の淨行は父母存生の肉を食ふこと  
 してせむしひてのちとせむしひてのち  
 ありあり  
 礼記の曲礼よけの父母存生の肉を食ふこと  
 してせむしひてのちとせむしひてのち  
 してせむしひてのちとせむしひてのち





○おろしく曲礼よとけりハ親と仰いもやまゝを礼同  
くれハいつまもとよび後方ハあひとゆるく口を  
をやくてきてまのるん  
○儀礼の士相見礼よとけりハ大人の言葉と親の言葉と  
ぼろいのりりあり大人はおもてあつるまをまのるん  
とせくすあげらるるもあげましましきうはえ  
てんせよとよとあげてのつとよハ胸中の意業と  
くめひえる事よとてまぢあておひりよハ又あり  
むとせよとよとあひかんあつるたうくしと念  
しとせよとよとあひかんあつるたうくしと念  
しとせよとよとあひかんあつるたうくしと念

東あそこの月ついでにたのしくかきせむそをな  
やひらくもまうしてかきせむのうしわふ  
ほくもあきもあつ時いほかふりよ見えあ  
くあびり下とくわあありあふら時い  
後いづれも中い後いんし西のりえ  
終いいづれも終いんし西のりえ  
乳記乃玉藻のひら敷のり終い時い  
てゆいんし西のりえあつ時い  
おじりあつてゆいんし西のりえ  
ゆいんし西のりえあつ時い

あそこの月ついでにたのしくかきせむそをな  
やひらくもまうしてかきせむのうしわふ  
ほくもあきもあつ時いほかふりよ見えあ  
くあびり下とくわあありあふら時い  
後いづれも中い後いんし西のりえ  
終いいづれも終いんし西のりえ  
乳記乃玉藻のひら敷のり終い時い  
てゆいんし西のりえあつ時い  
おじりあつてゆいんし西のりえ  
ゆいんし西のりえあつ時い





三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百









あるへくみこまへにけつん若うちうとこ親よま  
まてははかりよれ時々感してまこといふまじ  
とらふまじかゝるゆゑはたのはいふまじりてま  
本もれゆへ時かよひ親のむすくたのけひ  
時のむあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
まのひよあつてあひあひあひあひあひあひあひ  
をあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

なるりてまゆあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

水書三  
ではまづつらふに十日あふり七日のあつて廟のあま  
ありてまづつらふとさうあつていふりて衣服飲食を  
まづつらふとさうあつていふりて又夕方あつて廟  
の内へ入つていふりていふりて清浄すし忘念忘  
想をさうだつて一念のあつていふりていふりて  
を思ひ入て或はあつてのあつていふりていふりて  
あつていふりて或はあつていふりていふりて  
いふりて或はあつていふりていふりていふりて  
あつていふりて或はあつていふりていふりて  
或はあつていふりて或はあつていふりていふりて

おしして思つてまづつらふに十日あふり七日のあつて廟のあま  
ありてまづつらふとさうあつていふりて衣服飲食を  
まづつらふとさうあつていふりて又夕方あつて廟  
の内へ入つていふりていふりて清浄すし忘念忘  
想をさうだつて一念のあつていふりていふりて  
を思ひ入て或はあつてのあつていふりていふりて  
あつていふりて或はあつていふりていふりて  
いふりて或はあつていふりていふりていふりて  
あつていふりて或はあつていふりていふりて  
或はあつていふりて或はあつていふりていふりて

のやよよとていびあいのまろくしりあやみぢりやうらたそ  
 がういづつそりともあひよつたれとこはくは虚説よ  
 いかうたたりまろく人の海とて然はくそははくさ  
 ざりしとて何あてあてざうたれたりあやう天  
 地法陽鬼神おたけはまてこれ一理よそ然はくま  
 いかうたのんて作鬼神一伴るる位よいこつた  
 の親先祖の神矣そのまろくそけはくまろくま  
 かうまろく人ろのちまろくそはくまろくま  
 ろろくは曲礼よも然まろくまろくまろくま  
 ろろく物とていびあひまろくまろくまろくま

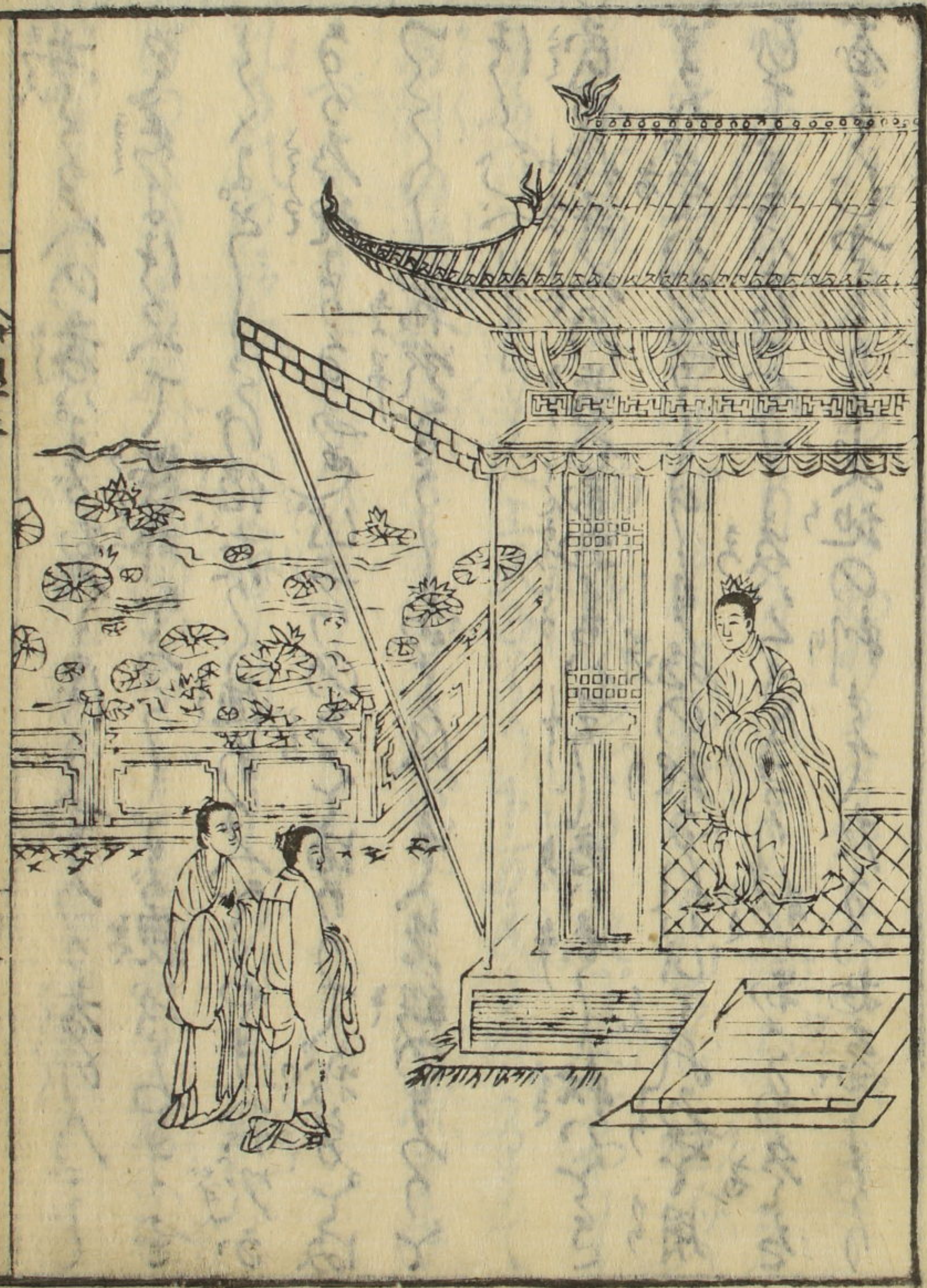
ちんたんてはくろくまも暮のはくれ本はまろくま  
 王制よもあひまろくまろくまろくまろくま  
 まろくのろく物本はくまろくまろくまろくま  
 へまろくまろくま  
 考終よ孔子言子まろくまろくまろくまろくま  
 後一寸のろくまもみかも父母の如くあはくま  
 かうらるるれはくまもはくまもはくまも  
 考のろくまもあはくまもあはくまもあはくまも  
 ろひも後代はあけて父母のろくまもあはくまも  
 ろくまもあはくまもあはくまもあはくまもあはくまも

家<sup>ス</sup>ある時<sup>ト</sup>親<sup>ヲ</sup>ははらふまらるを始<sup>ス</sup>く一年<sup>ノ</sup>け  
 官<sup>ニ</sup>ははらへて<sup>テ</sup>天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 とふまらりし<sup>ハ</sup>天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 るはありし<sup>ハ</sup>天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 いささしいくもの者<sup>ノ</sup>のあつてはくの人<sup>ノ</sup>を  
 乃<sup>チ</sup>あつたはらひし<sup>ハ</sup>天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 とまらる  
 天子<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>者<sup>ノ</sup>は天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 してはつてはつとまらる天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 天子<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>者<sup>ノ</sup>は天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 天子<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>者<sup>ノ</sup>は天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと

うつてはつてはつとまらる天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 天子<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>者<sup>ノ</sup>は天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 天子<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>者<sup>ノ</sup>は天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 天子<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>者<sup>ノ</sup>は天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 天子<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>者<sup>ノ</sup>は天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 天子<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>者<sup>ノ</sup>は天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 天子<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>者<sup>ノ</sup>は天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 天子<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>者<sup>ノ</sup>は天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 天子<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>者<sup>ノ</sup>は天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと  
 天子<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>者<sup>ノ</sup>は天子<sup>ノ</sup>恩<sup>ヲ</sup>ははらふと申<sup>ス</sup>くはつと

八十一

七



去りし儉倅とまのりはふとけとじりかくの  
 ころるれいもまうくあさまりの民百姓とて海は死し  
 てたふくその社稷とたりゆふは親先祖の功もじ  
 るしかりしに難果昌しきまかりぬくあへうん  
 卿大夫乃位高老い人のあはれおの法ありまごがひ  
 りよはけさ古法はそむらるやうもさべし故は衣冠  
 物しは徳はよままでいよ人のおまの定垂けいり  
 うくちりて移る衣冠とさだたふれぬいよん  
 乃あるるい徳よるいれはく先祖の家廟をたて  
 せぬるりく業ゆさて先祖のまつりもたへさるべし

ちいさく人の考がうがあらはらうまう考のりこし  
をいふはくして忠節をつつて親戚がわまき  
くまどくけはたぐくはあえとやまのつたか  
らうるれはうるのせびつうのなをゆりて我身は  
つてくし百死をくしあまのては終のまうつと  
はくしひべ  
民百惟平人の考の考物まは生し交の去し杖のさ  
まの考の考つてしゆり物の理されげとれるを用  
ひてまのたのやし交のくさまう杖におさめ冬を  
をまむやうし又地の料をたたる物地まうり

てそれくわらうし物あつてをとりてまもつて  
ゆきだたれをいふしゆり物の理されげとれるを用  
ひてまのたのやし交のくさまう杖におさめ冬を  
をまむやうし又地の料をたたる物地まうり  
らちとゆりりて物のはくをさるる二親とや  
るめししまうつて上天のり下万民よのうまて  
考の考物まは生し交の去し杖のさ  
くまどくけはたぐくはあえとやまのつたか  
らうるれはうるのせびつうのなをゆりて我身は  
つてくし百死をくしあまのては終のまうつと  
はくしひべ

小徳

三





珍物とぞのへて親とありさひたすまらるる  
としやまのふくろへ  
○まきみんれあをを傳せられしよんてんてんまらるる  
てか上るる親とありさひたすまらるる  
ゆもあむらるる色でんまきまらるる  
ゆのしあやのあさひとらるる  
ま親あむらるる  
まあまらるる  
○まきみんれあをを傳せられしよんてんてんまらるる  
てか上るる親とありさひたすまらるる  
ゆもあむらるる色でんまきまらるる  
ゆのしあやのあさひとらるる  
ま親あむらるる  
まあまらるる

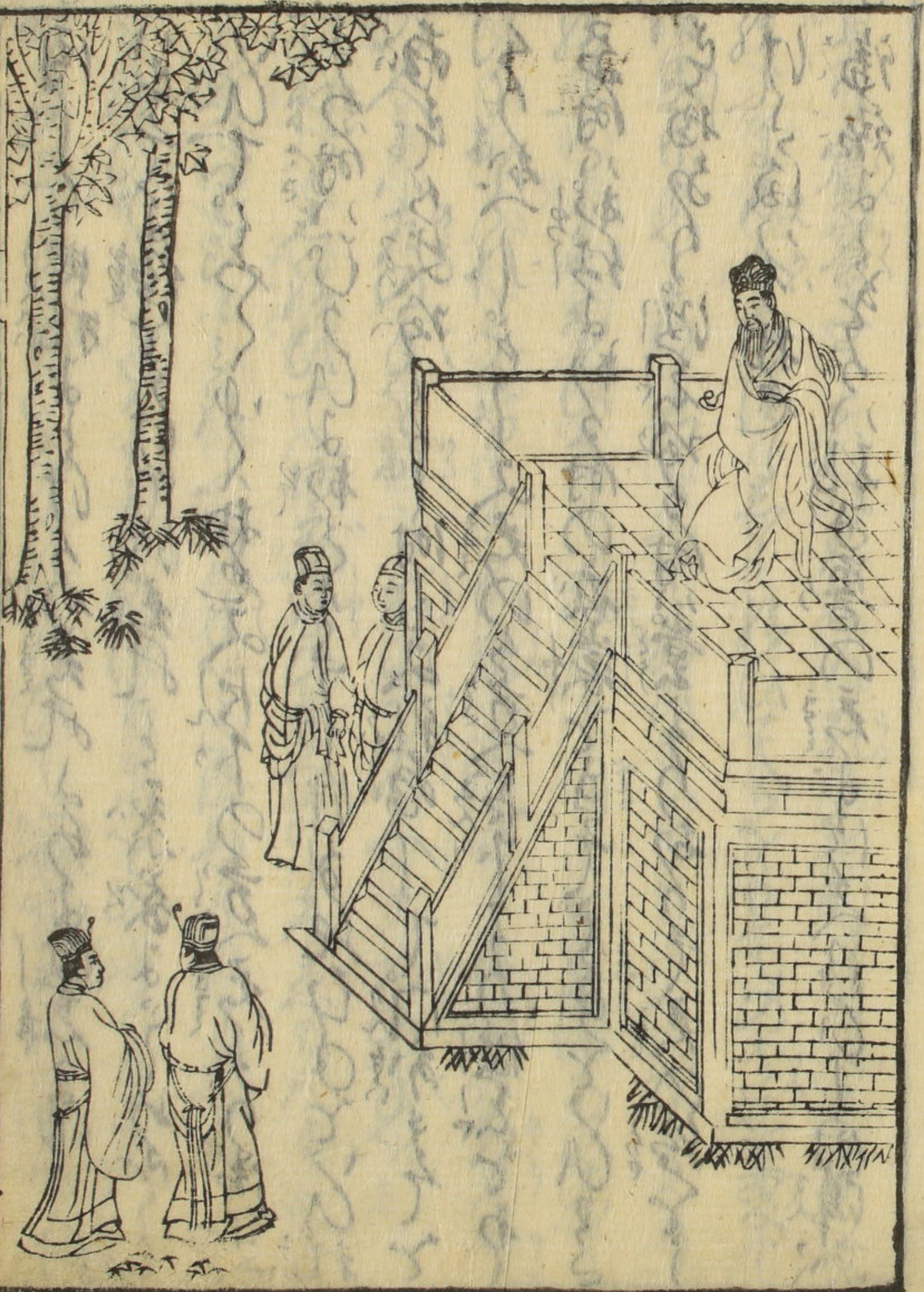
○まきみんれあをを傳せられしよんてんてんまらるる  
てか上るる親とありさひたすまらるる  
ゆもあむらるる色でんまきまらるる  
ゆのしあやのあさひとらるる  
ま親あむらるる  
まあまらるる  
○まきみんれあをを傳せられしよんてんてんまらるる  
てか上るる親とありさひたすまらるる  
ゆもあむらるる色でんまきまらるる  
ゆのしあやのあさひとらるる  
ま親あむらるる  
まあまらるる



一観終り

君た乃部

礼記の玉藻よとけつる下りるる事か  
んとありあはるる事か  
君の礼よとの事か  
よとけつる事か  
ちんとありあはるる事か  
笏よりあはるる事か  
らるる事か







をり終ひてハ又ハ終極はわく〜

○孔子は終りて終極のありとた

〜

〜

〜

〜

〜

〜

○孔子は終りて終極のありとた

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

○孔子は終りて終極のありとた

〜

〜

〜

○孔子は終りて終極のありとた

〜

〜

孔子ハはくくを居め給ひてほむ故之の是れ人の是れ  
毎月報ひて六の成り成り夜衣と云おはし給ひ

○礼記の玉藻ハはくくを居め給ひてほむ故之の是れ人の是れ

何ハはくくを居め給ひてほむ故之の是れ人の是れ

○おる曲礼ハはくくを居め給ひてほむ故之の是れ人の是れ

はくくを居め給ひてほむ故之の是れ人の是れ

を物おわり物りて人のあつてはくくを居め給ひてほむ故之の是れ人の是れ

○孔子の語ハはくくを居め給ひてほむ故之の是れ人の是れ

はくくを居め給ひてほむ故之の是れ人の是れ







もせむのふらふらしてはたふとて候方よらん  
なまなりし中ほりりなれはま燭さくは月心せ  
たふとて燕の軍機もいりてまうの筆墨  
とせぬぬがえしとがさひてりつりつり  
のま燭りぬるは始ありつぬよ燕のまははるど忠  
臣の言後とまのりえりつりつり切花しなる  
とあ

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

丈娘の部

○礼記の曲礼よとけるハ婚姻の儀はあつたらん人  
せてはむらりて女のなをまのりつり人のあつたけ  
りてはむらりては来らるは也とて外月あつたこ  
りあつたらん時だまられ人いおしじさ成書とて  
あのを上上じとあつたらんあつたらん  
まのりてはむらりつりげまの友とていあつたら  
まのりあつたらんもまのりあつたの別とあつたらん  
とてあつたらんもまのりあつたの別とあつたらん  
これ同一姓ハ先祖のたあつたらんを親類とて

いぬりかろくゆいぬりけとくゆいぬりその姓とく  
とくゆいぬりてそれあふよゆりせとくゆいぬり  
儀礼乃士昏礼よとくゆいぬりてそれあふよゆり  
よゆいぬりてそれあふよゆりてそれあふよゆり  
あふよゆりてそれあふよゆりてそれあふよゆり  
おゆいぬりてそれあふよゆりてそれあふよゆり  
とくゆいぬりてそれあふよゆりてそれあふよゆり  
ませとゆいぬりてそれあふよゆりてそれあふよゆり  
あふよゆりてそれあふよゆりてそれあふよゆり  
ゆいぬりてそれあふよゆりてそれあふよゆり

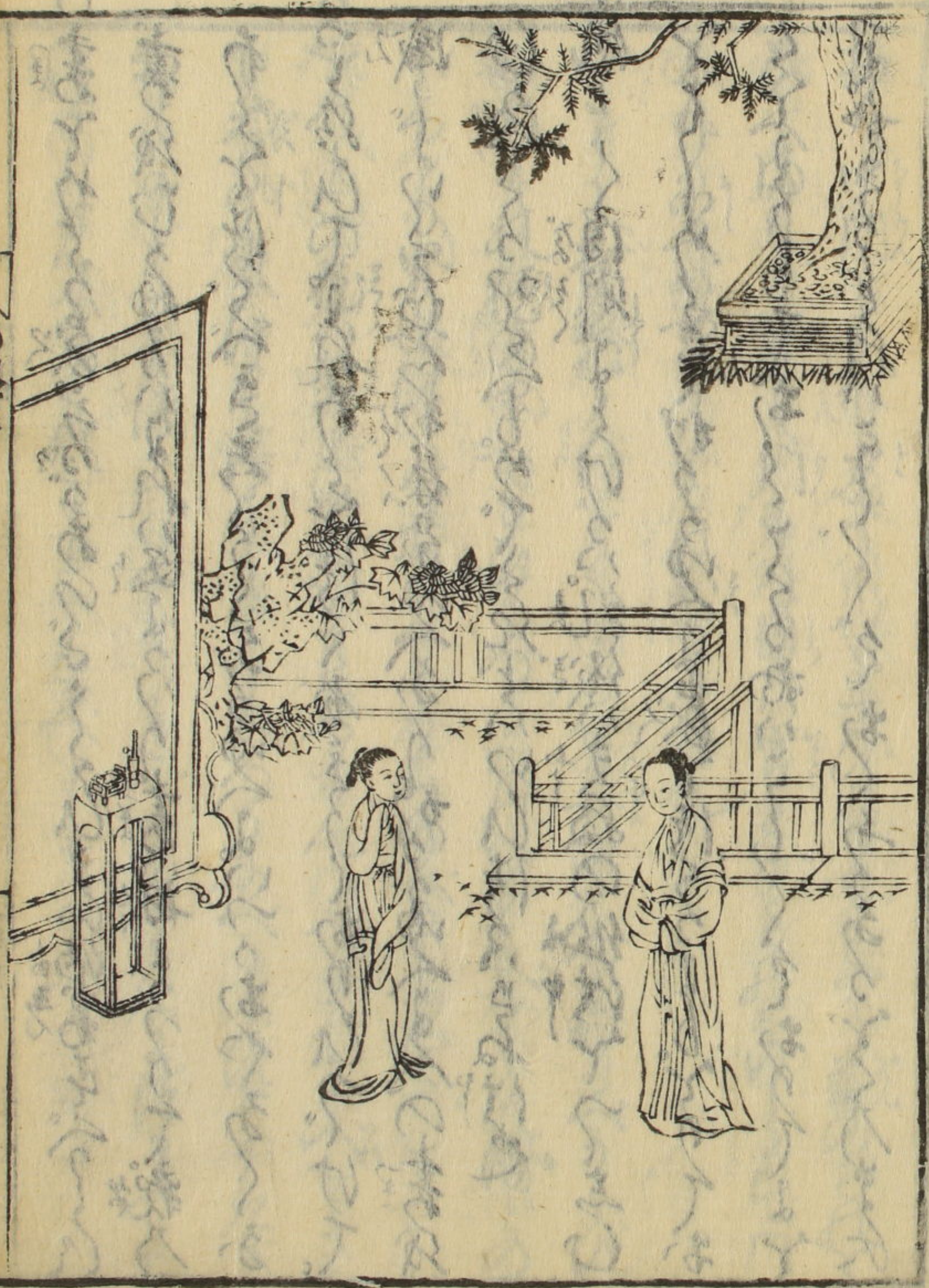
いぬりかろくゆいぬりけとくゆいぬりその姓とく  
とくゆいぬりてそれあふよゆりせとくゆいぬり  
儀礼乃士昏礼よとくゆいぬりてそれあふよゆり  
よゆいぬりてそれあふよゆりてそれあふよゆり  
あふよゆりてそれあふよゆりてそれあふよゆり  
おゆいぬりてそれあふよゆりてそれあふよゆり  
とくゆいぬりてそれあふよゆりてそれあふよゆり  
ませとゆいぬりてそれあふよゆりてそれあふよゆり  
あふよゆりてそれあふよゆりてそれあふよゆり  
ゆいぬりてそれあふよゆりてそれあふよゆり

いひ終ひ一あしへのこゝろに終ひて終ひて終ひて  
とひひまゝ一母のあし終ひて終ひて終ひて  
とひひまゝ一とひひて終ひて終ひて終ひて  
とひひまゝ一とひひて終ひて終ひて終ひて

○礼記の郊特牲よりけつはまぬありては或親ともあり  
或はもともありてそのあまも世もともほくおされ  
はまぬのたひ人傳りてしりて終ひて終ひて終ひて  
よありて終ひて終ひて終ひて終ひて終ひて  
しへのあまも終ひて終ひて終ひて終ひて終ひて  
とひひまゝ一とひひて終ひて終ひて終ひて

とひひまゝ一入の視もとも終ひて終ひて終ひて  
とひひまゝ一とひひて終ひて終ひて終ひて  
かへのとひひて終ひて終ひて終ひて終ひて  
かへてとひひて終ひて終ひて終ひて終ひて  
のゆゑぬ物だといまも終ひて終ひて終ひて  
ありとのとひひて終ひて終ひて終ひて終ひて  
とひひまゝ一とひひて終ひて終ひて終ひて  
とひひまゝ一とひひて終ひて終ひて終ひて  
とひひまゝ一とひひて終ひて終ひて終ひて  
とひひまゝ一とひひて終ひて終ひて終ひて

おろとじついよゆけ時唐をを物よまてらんづあをとお  
らひてまぬの別をあらんこめせる備のりた  
まぬおろそふとらんふまをれともさうりまぬ  
申おれとさふりうりて礼儀をまらぬの家  
あさまらびしきまぬあのもうてくよあつ物  
かんまぬの礼儀きたりてこのまぬあつ  
もあひまらぬだかひまぬを思ひ礼儀たてか  
まぬの礼儀をあらんこめせる備のりた  
あつた書物よらんまらぬ



○書<sup>つま</sup>とりてらるる。さうがあのていごうひまは酒<sup>おぼ</sup>常<sup>あ</sup>をさへうしん  
書<sup>つま</sup>成<sup>あ</sup>じうゆかりはまればはまうりり。書<sup>つま</sup>母<sup>あ</sup>ようりりて親<sup>お</sup>乃  
わとてほくくべささてくちのゆいよつうあわあくか  
ひきひしてまればとほくあさうしあひひつけて  
感<sup>か</sup>じいしむらおまふゆいあひかろゆいよ人の書<sup>つま</sup>成  
ひうさうかえもあでさえさひひはるさおはせ  
同<sup>どう</sup>く内<sup>うち</sup>則<sup>すなは</sup>よとけるは礼<sup>れい</sup>儀<sup>ぎ</sup>はまぬの他<sup>ほか</sup>はとつとまじ  
とさうゆいりかろゆいよあをほろろよも。ゆいりてお  
くとさうらして。おとさうおいこしくをあのてよと  
ア。ゆいりておいこしくをあのてよとさうあつとさうまふ

○あり中<sup>ちゆう</sup>門<sup>もん</sup>とてそとでさういよ。まひりくうさあ番<sup>ばん</sup>のまじ  
さへ向<sup>むか</sup>ひのせそて。いふ内<sup>うち</sup>の男<sup>おとこ</sup>さうまおせいしに門  
よりあへいあさうをれまさるるお也  
いこしよま衣<sup>い</sup>被<sup>ひ</sup>とけとくよも。男<sup>おとこ</sup>女<sup>め</sup>ひらあはかふりうい  
ありこれ櫃<sup>ひ</sup>の中<sup>ちゆう</sup>もひらあはれとくくへうの湯<sup>ゆ</sup>いあ  
まてしも男<sup>おとこ</sup>女<sup>め</sup>ひらあはれとくくへうの湯<sup>ゆ</sup>いあ  
とつとの物<sup>もの</sup>はあはれとくくへうの湯<sup>ゆ</sup>いあ  
てちのゆいけそはうよさうあつとくくへうの湯<sup>ゆ</sup>いあ  
おさるさうまはほくく。ゆいさうかたりまはほくくま  
ほくくまはほくく。ゆいさうかたりまはほくくま

○奥のよりいさよはるせそあつてはなればありて乃  
よのあつてはさあつてはさあつてはさあつてはさあつて  
男女れよりいさよはるせそあつてはなればありて乃  
妻の肉の又いさよはるせそあつてはなればありて乃  
いさよはるせそあつてはなればありて乃  
俗にも女男のよのあつてはなればありて乃  
てもいさよはるせそあつてはなればありて乃  
物ありあつてはさあつてはさあつてはさあつてはさあつて  
物をさつてはさあつてはさあつてはさあつてはさあつて  
あつてはさあつてはさあつてはさあつてはさあつてはさあつて

るよよいさよはるせそあつてはなればありて乃  
乃男女のよのあつてはなればありて乃  
つよいさよはるせそあつてはなればありて乃  
○男のよよいさよはるせそあつてはなればありて乃  
もいさよはるせそあつてはなればありて乃  
いさよはるせそあつてはなればありて乃  
ていさよはるせそあつてはなればありて乃  
るいさよはるせそあつてはなればありて乃  
よいさよはるせそあつてはなればありて乃  
いさよはるせそあつてはなればありて乃





〇 孝行ある人あり。孝れども 名儒の評判また父母  
 見ざるくもどしどし 母親賢る人あり。孝れども  
 父母ももあらしめて 結せり

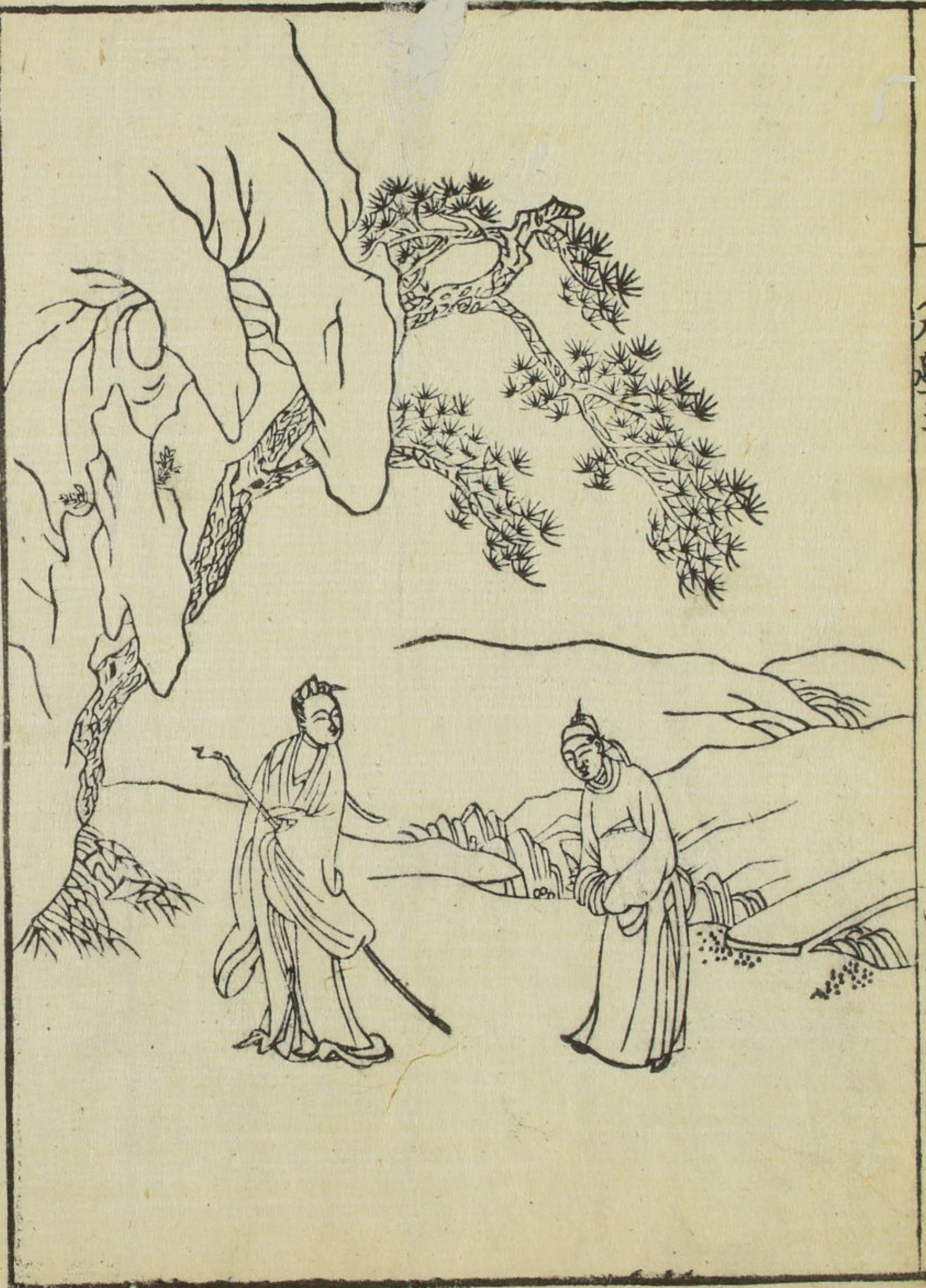
〇 孝行ある人あり。孝れども 名儒の評判また父母  
 見ざるくもどしどし 母親賢る人あり。孝れども  
 父母ももあらしめて 結せり

〇 孝行ある人あり。孝れども 名儒の評判また父母  
 見ざるくもどしどし 母親賢る人あり。孝れども  
 父母ももあらしめて 結せり

長知乃都

〇 妻子よとけりんらん  
 天より性長の徳をわくせ給ひて  
 おられとも戒ハ純實の倫人  
 たるらふまてうひて  
 けくおの若んあつた  
 こと母の赤く  
 らるまてうひて  
 ともものるまて  
 らるまてうひて  
 べんあつた  
 べんあつた  
 べんあつた

されいたのりくおのひん徳の  
 へびをねれ中徳はゆらや  
 又つらる我よりうひて  
 ろるゆいよわりくるまて  
 まつらやよまて  
 けん持あるべ  
 礼記の曲礼よ  
 父の友のまて  
 といふまて  
 だいにばつらるるまて



くさぬりりたえしむれり一倍とていけり  
くさぬりのいけりやまひつとまらるる  
れり十年とていけりるるる思のいけり  
やまひつと十年とていけりるるる同いけり  
まらるるる時いけりるるるるるる  
いけりるる人のいけりるるるるるるる  
らぬいけりるるる枝とていけりるるるる  
いけりるるるいけりるるるるるるる  
らるるるるるるるるるるるるるる  
らるるるるるるるるるるるるるる  
らるるるるるるるるるるるるるる











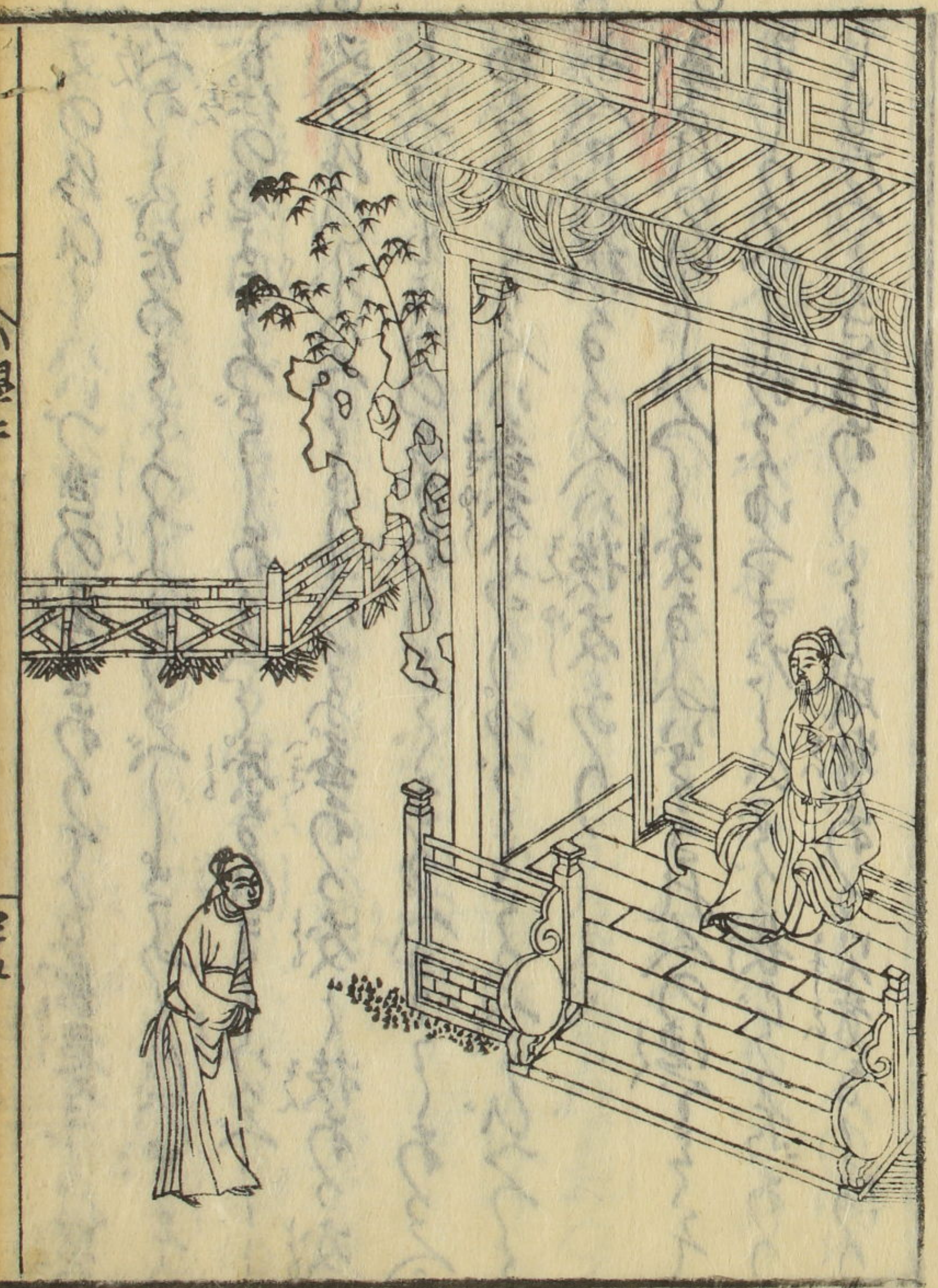
人の道にまじりては、  
我れと曰ふるに、  
どしおのころものごとく、  
あるいやく時をいづまむらるるを、  
あるとありひらりして、  
ありさききよめて、  
ありてありくし、  
らかひに、  
ぞ。ふかつらうとを、  
福徳よ孔子の里のほさあひよ。

人の道にまじりては、  
人杖つぎてありてを、  
そくおほりて、  
そ

**朋友の部**

常りれつひ、  
らびき、  
ひさた、  
**れ**、  
あひひ。

小室三  
 ち申とくしてたがひまわりくは橋よとて  
 ちまのれりつらなむらじまいたるのれりりあ  
 りぞ。たがひまむらじまのりせんとてあ  
 きるやとせむのりありとぞ  
 の音なとらまよりのなをれみよふまれのれ  
 のほひつらなむらじまのりつらとてあ  
 りしり。たがひまむらじまのりつらとてあ  
 きるやとせむのりありとぞ  
 ちまのれりつらなむらじまいたるのれりりあ  
 りぞ。たがひまむらじまのりせんとてあ  
 きるやとせむのりありとぞ  
 の音なとらまよりのなをれみよふまれのれ  
 のほひつらなむらじまのりつらとてあ  
 りしり。たがひまむらじまのりつらとてあ  
 きるやとせむのりありとぞ  
 ちまのれりつらなむらじまいたるのれりりあ  
 りぞ。たがひまむらじまのりせんとてあ  
 きるやとせむのりありとぞ  
 の音なとらまよりのなをれみよふまれのれ  
 のほひつらなむらじまのりつらとてあ  
 りしり。たがひまむらじまのりつらとてあ  
 きるやとせむのりありとぞ



又のゆひいづまのまありても。あつたるは賢  
人ありたりとて。まうづい。まうづい。ひの中  
も。仁のまよ。まうづい。あつたるは賢  
又のゆひいづまのまありても。あつたるは賢  
まうづい。まうづい。あつたるは賢  
まうづい。まうづい。あつたるは賢  
まうづい。まうづい。あつたるは賢

まうづい。まうづい。あつたるは賢  
まうづい。まうづい。あつたるは賢  
まうづい。まうづい。あつたるは賢  
まうづい。まうづい。あつたるは賢  
まうづい。まうづい。あつたるは賢

ともそのまうづい。あつたるは賢  
まうづい。まうづい。あつたるは賢  
まうづい。まうづい。あつたるは賢  
まうづい。まうづい。あつたるは賢  
まうづい。まうづい。あつたるは賢

礼記

曲礼

ありて。さうさうちゆきそし門よりたの方よ客の  
又門よりそたの方よある也。さうさうしよるが  
みもたうよ志きあれども。亭まきえへのり客あ  
ちうりのあり也。さうさうのまきしりり。後のも  
機よさうし。徳とたりと。しほされたり。ひきりた  
さうし。徳の客よまきさうし。さうさうの客よまき  
さうし。又あさうの客よまきさうし。いともおあり亭ま  
るひおとまらして。さうさうし。

通論

*Faint handwritten text, possibly bleed-through or a second column of text.*

これおのほい。トハ客の内よ。親よ者あり。これひ  
ら。し。考よつて。もうあ。ひ。思あ。る。物。也。客。乃。内  
ま。見。や。わ。ま。よ。ん。は。け。ん。や。お。し。れ。う。り。年。と。け  
ら。ん。よ。ま。し。り。る。よ。あ。ひ。ひ。思。あ。る。物。也。客。乃。内。れ。り  
さうし。あ。さ。し。れ。ハ。客。乃。内。よ。官。職。よ。ま。き。さ。う。し。も。よ  
く。さ。う。し。あ。さ。し。り。る。物。也。か。ら。う。ん。よ。あ。い。あ。よ  
ひ。あ。う。り。天。下。よ。う。り。ま。き。さ。う。し。か。ら。う。り。あ。い。あ  
。天。子。よ。あ。い。さ。し。り。る。後。下。七。人。あ。れ。ハ。ま。き。さ。う。し  
し。も。も。その。下。よ。う。り。さ。し。り。る。後。下。七。人。あ。い。あ  
ひ。さ。う。し。り。る。後。下。七。人。あ。れ。ハ。ま。き。さ。う。し。も。よ

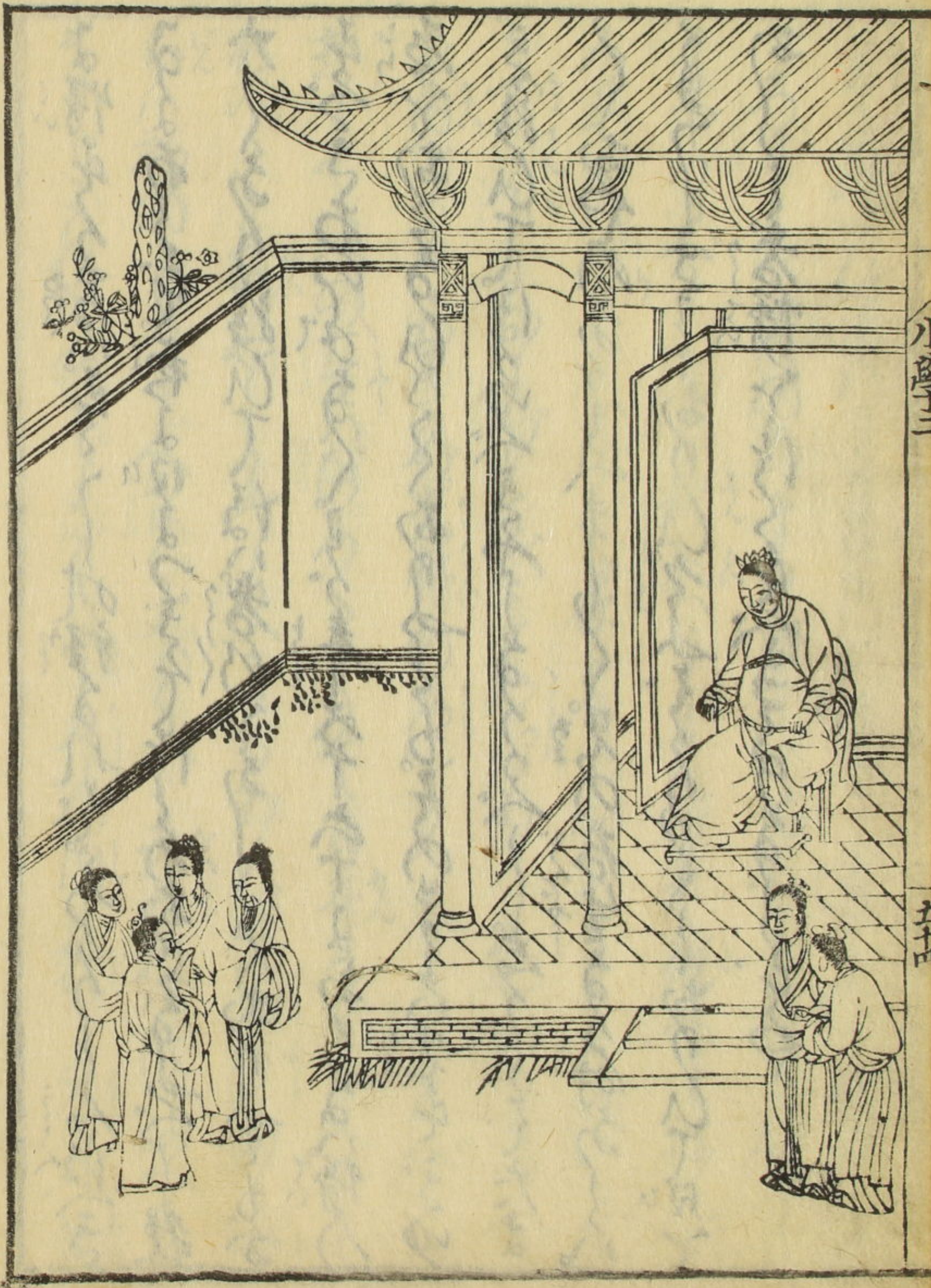




愛まれのひいばより茂肉の志とまきつくと縁ん  
ころよしそそのあまり茂弁の他人もあつが  
まどろくぐー。よく親類はくくくくく他人も縁ん  
ろとろいなるふりど茂とくくくくく他人も縁ん  
うまて下よあつがくくくくく他人も縁ん  
茂肉とよくあつが茂肉の志とまきつくと縁ん  
おつと人の一生はひろくくくくく百年とまきつくと縁ん  
あつとよ茂はやまづくくくくくあつと茂は幼少あつ時  
かハ拙のよまきつくと縁んくくくくく老われははくくくく  
る。これとのぞくくくくく中年の肉は親よ考り見

は情はらんるるい。きくくくくくこれ経るれどくくくくく  
ひよあつと茂ははひよつと茂ははあつと茂はは  
かくあり縁んしては茂考りあつと茂ははあつと茂はは  
はくくくくくあつと茂ははあつと茂ははあつと茂はは  
はくくくくくあつと茂ははあつと茂ははあつと茂はは  
くあつと茂ははあつと茂ははあつと茂ははあつと茂はは  
はくくくくくあつと茂ははあつと茂ははあつと茂はは  
あつと茂ははあつと茂ははあつと茂ははあつと茂はは

又ソムいハ人いトふトうメハけモのトもほりカら  
 ンぞおこラウゆくよそれのやらウー也されハ官  
 ハえやづクさるるよおこらウ病ハをこしまいゆふ  
 まし。こもこいハおこらウよまし。考ハ考ハ考ハましとし  
 ちもこいふれもーめれんーめれんー健けんハあるあ  
 へかり  
 節せつあまりけんふよえれりまさらりあつらふハあるあ  
 くして年々けんふとやまらざる。スまハいるいるい  
 身みのだらとまさるよはくんざらら。さらハいるいるいるい  
 とまさらいざららいれらうのお祥さむありとしり



小室

三



又とけつひにぞくて人のらぬ事またくさつものも  
ららるるのりよき事益のゆゑなれどもとてはいかに  
弁察とてくさくさたるあけくれらうけえまをへき  
いふたのち父子の親まぬの別さうとて

倭小の巻之二終

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly cursive characters.*

